

掃除道、企業の現場から。

掃除道は働く人の心に革命の火を点します。

それはどんな耳障りの良い教育理論も、道徳教育も足下にも及びません。

そして、それはただひとつの例外もありません。

環境整備は 最高の人材育成法

環境整備を通し、組織の規律を守り、自発性、自立性、改善意欲があり、コミュニケーション能力のある人材が育ちます。

環境整備は トップの信念を表す

トップがこれでいいと思った瞬間に成長は止まり、環境整備の質は下がります。トップの信念が環境に現れます。トップの信念が環境に如実に表れます。

環境整備は 会社の基準を表す

いつも 70%でいいや、という基準。90%の基準。100%やりきる基準。常に100%以上を目指す基準。その会社の基準が環境整備に現れます。

環境整備は 組織の継続力を表す

考え方にムラがある会社、いきあたりばったりの会社、すぐに新しいモノに飛びつく会社、自己流に走る会社は、愚直にコツコツと継続することができません。継続は力なり。

環境整備は 個から公へと広がる

はじめは自分のためだけにやっていた環境整備も次第に、同僚のため、職場のため、会社のため、お客様のため、地域のため、と自分以外の誰かのために広がっていきます。

無上位を目指そう

狭い範囲をこれ以上ないレベルで掃除すると見えてくるものがあります。基準の低い掃除を広い範囲でやるのではなく、狭い範囲を無上位の基準で掃除しましょう。

苦行ではなく 易行、遊行へ

掃除道は苦行ではありません。みんなで楽しくワイワイと笑顔でやる遊行です。楽しいことは続きます。楽しいと工夫します。楽しさは連鎖します。

整理整頓は生産性を高め、 清掃清潔は質を高める

3 S 活動で整理整頓をすると生産性が高まります。さらに踏み込んで清掃・清潔活動に取り組むと、人の質、商品の質、サービスの質など「質の向上」が生まれます。

守ることを決め、 決めたら守る

モノの位置を決めたら守ることの反復行動で、規律が社内に生まれます。このシンプルな方針すらできないままに経営理念、月次方針が徹底されるはずがありません。

すぐやる、必ずやる、 できるまでやる、やり続ける

良いことは思い浮かんだだけではダメです。すぐに行動することが大事です。そして一度やり始めたらやり続けることが大切です。

環境整備は 護身術、護心術である

掃除をし、環境を整えることによって、労災事故などの危険が減ります。そして環境整備は身を護るだけではなく、働く人の心も護ります。

環境が人を創り、 人が環境を創る

人は環境の影響を受けます。環境が人を創ります。そしてその環境を創るのはやはり人です。社員と力を合わせ、良い環境をつくることが、良い人材教育になります。

汚くて良い会社はない

汚いのを良しとするのは会社の考え方、基準です。人を大切にする会社は環境を良く整えます。良い会社づくりは綺麗な会社づくりからです。

細部に神が宿る

見えないところを掃除する風土があるか、細かいところを丁寧に扱うか、愚直にやり続ける風土があるか、……細部にこだわる風土ができたとき会社の輝きは増します。

環境は 会社の社風と未来を表す

オフィス、工場の環境はそこで働く人の習慣を表しています。悪い習慣は暗い未来を創り、良い習慣は明るい未来を創ります。環境は社風の通信簿であり、未来の预言書です。

現場のモノは メッセージを語る

現場のモノはメッセージを発しています。もっと便利に、もっと楽に、もっと上手に活用してくれと言っています。感受能力が高まると現場から改善要望の声が聞こえてきます。

今に集中するメソッド

良い環境を創るということは「今ここ」に集中できる場を創ることです。その結果、生産性、効率性、効果性は上がり、会社の業績は向上していきます。

環境整備は 仕組みづくり

一人の思いだけで環境整備は続けることはできません。仕組みとして機能しないとリーダーが変わった瞬間、環境整備の文化は崩壊します。続ける仕組みづくりが大切です。